座談会

大学学生寮の現在と未来

大学学生寮の現在と未来を考える

山田　大学における学生寮の位置付けは、経済的負担軽減などは普遍的な要素としてありますが、かつての相部屋から個室化、いわゆる寮離れといった傾向を経て、RA（レジデントアシスタント）制度の導入や1年次は全員入寮するといった共同生活を通じた教育的な場として、また、留学生と同居することによって得られるグローバル空間としての意義が付加されるなど、新たな学生寮の在り方が年々注目を集めています。

寮運営に目を転じてみると、大学が運営する場合や運営を委託する場合、学生自治寮など、さまざまなタイプがあります。教育的要素を重視した学生寮であっても、設置に付随してさまざまな手続きが必要となりますし、成人年齢に達してはいるものの、社会的には未熟な世代に属する学生たちの生活の場においては、さまざまなトラブルも発生します。また、コロナ禍においてはクラスター発生などの新たなリスクも生じてきました。

2023年度入試の傾向を見ると、全国的には地元志向の傾向が強い状態が続いています。安心して受験生を

MEMBER

津吹 達也　武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 学部長補佐・教授

請川 滋大　日本女子大学学生生活部長・家政学部教授

深尾 昌峰　龍谷大学副学長・政策学部教授

八木 雅史　流通科学大学経済学部長 兼 附属国際交流施設学生寮長

司会
山田 健太　専修大学文学部教授、広報・情報委員会大学時報分科会委員

進学させられるかどうかの指標の一つとして学生寮を捉えた場合、地元以外の地域からの学生獲得という観点において、学生寮は重要なファクターとなりつつあるのではないでしょうか。

今回は、さまざまなタイプの学生寮を運営する大学の皆さまによる意見交換を通じて、大学学生寮の現在と未来について共有・認識する場としたく思います。初めに、各大学で学生寮を設置する目的や役割についてお話いただきたく思います。

学生自治、RAを重視した寮運営

請川　日本女子大学の請川と申します。私は寮運営を含め、学生生活全般を担当する学生生活部の部長も務めています。本学は東京の目白キャンパスと川崎の西生田キャンパスの2キャンパス制でしたが、2021年に全学部全学科を目白キャンパスに統合しました。目白キャンパスの敷地内には「潜心寮」「泉山寮」という2つの学生寮があり、定員は合計104名ですが、現在満室となっています。2019年には寮の改修を行いました。また、さかのぼると1998

年に、以前は相部屋だったものを、時代の流れに即して全室個室に変更しています。

本学では大学創設当初から、自治寮として学生寮を設置しています。フロアごとに十数名のグループを組んで集団生活を送っており、学生自身が各フロアで独自の生活ルールを制定したり、問題が起きた時には各フロアの代表から成る寮生の委員会で話し合ったりするなど、現在も学生自治の伝統を大切にしています。一方、4名の教員が学寮委員会という組織に所属しており、寮生の委員会との間に学寮連絡協議会を設け、より複雑な問題の解決に当たっています。

津吹　武蔵野大学アントレプレナーシップ学部学部長補佐の津吹と申します。アントレプレナーシップ学部は、新設されて今年度で3年目を迎え、現在、3学年で180名の学生が在籍しています。本学部では学部特化型の学生寮を設置しており、1年次の学生全員が入寮します。それにより、互いが切磋琢磨しながら共に学ぶだけでなく、社会で活躍している起業家やビジネスパーソンなどのゲストを招くなど、全室個室ではあるものの、共用スペースなどで授業外でもさまざまな刺激を受けられる環境を作り出しています。寮には2年次以上の選抜された学生も約10名生活してお

八木 雅史氏

り、RAとして寮運営をサポートしています。また、教員も寮に宿泊することができ、学生と一緒に過ごしながら個別の相談を受けるような環境も整えています。

新しい形の学生寮を模索

八木　流通科学大学経済学部長の八木と申します。私は2018年4月に開設された国際交流施設学生寮「RYUTOPIA（りゅうとぴあ）」の寮長も務めています。「RYUTOPIA」は、キャンパス敷地内で世界各国からの留学生と日本人学生が共同生活を行い、日々の国際交流を通じてグローバルマインドを育む新型教育施設です。また、大学としての教育力を高めるための施設としても位置付けています。

学生寮の設置目的は大きく分けて二つあります。一つはグローバルな視野を持った学生を育てることです。本学では、英語と中国語を徹底的に習得できるGSP（グローバル・スタディーズ・プログラム）を導入しており、留学の機会も設けています。しかし、全員が留学を経験できるわけではありません。そのため、留学をせずとも日常的に国際交流を行い、成長できる施設を作りたいと考えました。もう一つは留学生の教育です。卒業後に日本で働くことを希望している留学生が多くいるのですが、日本人学生と24時間共に生活することで、日本語能力を磨き、日本文化への理解を深めてもらいたいと考えています。

形式としては6名で1ユニットを形成し、個人別の居室と共用スペースによる、共同生活を重視しています。

深尾　龍谷大学副学長の深尾と申します。本学では、株式会社共立メンテナンスと業務提携を行い、本学学生のための専用学生寮を2022年に新設しました。その背景には、コロナ禍で多くの学生が孤立、困窮するといった事態が起き、学生の生活環境への問題意識を強く持ったことがあります。本学では、京都の深草キャンパスに約1万2千名の学生が在学していますが、全ての一人暮らしの学生が近隣の居住施設に住めているわけではありません。そうした状況を改善し、コロナ禍で希薄化したコミュニケーションを活性化すべく、学生寮の新設を計画しました。とはいえ、全額を大学負担で設置するのは財政的に厳しい。そこで企業と業務提携することで学生寮を運営するというスキームを構築することになりました。

新設された専用寮「Ryukoku Student Home 光輝」は、完全個室型で生活に必要な家具、家電、Wi-Fi、エアコンなどを完備しており、入居当日から快適に暮らすことができます。また、シアタールームやスタディールームなどの充実した共用スペースを備え、学生同士の交流も活発に行えます。さらに、寮には寮長・寮母が常駐し、しっかりとした感染症対策を取って、万が一の際にも生活をサポートできる環境を整えています。

プライバシーの確保と防犯対策に注力

山田　学生寮においては、プライバシー管理やリスク管理なども重要になってきます。特に女子寮の場合、防犯対策なども重要になるかと思いますが、日本女子大学では管理的側面においてどのような取り組みをされているのでしょうか。

請川　寮の敷地の入り口に、大学の正門と同様に警備員を配置しているほか、管理人が住み込みで常駐することで防犯対策を徹底しています。また、入退館システムのセキュリティーを強化し、玄関はオートロックにしています。カードで解錠するのですが、セキュリティー面だけでなく、病気やメンタル面の不調で登校できない学生がいないかチェックするのにも役立っています。できるだけ干渉しないようにしていますが、あまりに心配なときは学生に声を掛けるようにしています。自治寮としての伝統を大切にしたいという思いもありますが、やはり今は繊細な学生が多く、問題が起きたときに学生同士で解決するのではなく、大学側に頼ってく

ることがある。そのため、大学側もある程度、サポートしていかないと、円滑な運営ができないのではないかと考えています。

山田　龍谷大学の学生寮ではRA制度を導入していますが、どのように運用されていますか。

深尾　本学の学生寮は教育機能というよりは、学生と保護者が安心できる居住空間を提供することを第一の目的としています。そのため、プライバシーが確保された快適な個室や健康的な食事を提供することに力を入れていますが、学生同士のコミュニケーションもやはり大切です。そこで、学生同士が共用スペースでレクリエーションを楽しんだり、遊びに出掛けたりなど、コミュニケーションを促進する役割を担う存在としてRAを置いています。われわれとしては、安心・快適な暮らしを送りつつ、学生同士のコミュニティも創出するような学生寮のモデルを構築していきたいと考えています。

グループ単位を活用した共同生活

津吹　武蔵野大学でも、上級生であるRA1名と5~6名の下級生でグループを構成するハウス制度を導入しています。グループごとに週1回のミーティングを行うほか、輪番で清掃活動を行ったり、互いに安否確認を行ったりするなど、コミュニケーションを取れる体制にしています。また、学部の教員が日々、1~2名宿泊しており、一定の監視機能を果たしつつ、教員と学生のコミュニケーションが深まる機会にもなっています。

深尾 昌峰氏

八木　「RYUTOPIA」もできるだけ学生の自治に任せる方向で運営しています。ユニットリーダーを含む6名を共同生活の単位とするユニット制を採用しており、ユニットリーダーには寮費の割引を適用し、寮生のサポートに当たってもらっています。教職員が介入するとどうしても自治を弱めてしまいますし、学生に自ら成長してほしいことから、何か課題があった際にもできる限りユニットリーダーに解決してもらうようにしています。大学側から伝達事項などがある時も、ユニットリーダーを通じて各ユニットに周知していく方法を取っています。

津吹 達也氏

教育施設としての学生寮の役割

山田　続いてお伺いしたいのが、学生寮の教育的側面についてです。武蔵野大学アントレプレナーシップ学部では、1年次の入寮が必須ということで、かなり教育とリンクした施設になっているかと思いますが、具体的にどのような取り組みをしているのでしょうか。

津吹　われわれは、学生寮は授業と同等かそれ以上の学びを生む場であると考えています。社会性、協調性、規範意識といった社会に出るために必要なものを、1年で凝縮して学べる施設として位置付けているのです。そのために寮内にはさまざまな工夫を凝らしています。例えば、寮の中には至る所にホワイトボードが設置されています。学生たちはサークルやアルバイトが終わり寮に帰ってくると、このホワイトボードを使って遅くまで、自分の考えたビジネスプロジェクトなどについて、ディスカッションやミーティン

グを行っています。1年次からそうした時間を過ごせることは、とても有意義だと考えています。アントレプレナーシップを養う上で、新しい価値を創造する行為と学生寮という空間は非常に親和性が高い。今後も「新しい価値を創造していく装置」として、学生寮は重要な役割を果たしていくと思います。

山田　「RYUTOPIA」も国際交流に重点を置いた教育施設として設置されたとのことでしたが、具体的な取り組みについて教えてください。

八木　本学は1学年900名の小規模な大学ですが、そのうち200名が留学生です。一般財団法人日本語教育振興協会が主催し留学生に勧めたい大学を選ぶ「日本留学AWARDS」の大賞を3年連続で受賞していますが、それだけ留学生に対する教育や大学生活のサポート、就職支援に力を入れてきたのです。その背景には、留学生は大学の教育力を高めるための大きな財産であるという考え方が基本にあります。寮生の定員は、日本人学生と留学生の割合が半々で、男女比も同様に設定しています。先ほどユニット制のお話をしましたが、ユニットも日本人学生が半分、留学生が半分で構成されています。また、できる

だけ学年や学部、出身国などがかぶらないように工夫しています。一つのユニットで異なる価値観の学生たちが共同生活を営むことで、お互いに高め合ってもらうことが狙いです。留学生教育に力を入れて、留学生が大きく成長していく様子に刺激され、日本人学生も頑張る。さらには異文化交流も進む。そうした循環を「RYUTOPIA」を通じて作っていきたいと考えています。

コミュニケーションを育む場としての寮

深尾　学生寮ではないのですが、本学では京都市と提携して、市営住宅に学生を住まわせる「3L APARTMENT」というプロジェクトにも取り組んでいます。高齢化が進み、地域における自治会の担い手不足が深刻な問題となっていますが、そうしたエリアに学生が暮らすことで地域コミュニティの活性化を目指すというものです。住民になると地域の人々とあいさつしたり、一緒にラジオ体操をしたり、コミュニケーションが生まれる一方で、騒いでいると注意されるなど一定の緊張感も経験します。そうしながら地域に溶け込み、高齢化で実施に苦労しているお祭りを手伝うなど、地域を支えるようになる。こうして知らないコミュニティに入っていって交流することの教育効果は非常に大きいと思います。寮だけにとどまらず、居住を通して学生を教育するさまざまな試みに、これからも取り組んでいきたいと思います。

山田　日本女子大学は創設当初から、教育目的での寮運

請川 滋大氏

営を続けられています。現在はそれがどのように受け継がれているのでしょうか。

請川　本学は1901年に創設されましたが、その際、創設者の成瀬仁蔵が生活の面でも学生を育てていきたいということで、教員用の寮と学生寮を同じ敷地に建てたことから寮の歴史が始まりました。元々、人間教育の一環として寮が設置されたわけです。それから120年が経ち、時代も変わりましたので、相部屋から個室に改修するなどの変化はありましたが、共同生活ならではのメリットは継承されているように思います。コロナ禍による活動制限でお互い顔も知らないという学生が増えた中、寮生たちは感染対策に気を配りながらもコミュニケーションを取ることができました。また、寮では毎年春にいづみ祭という運動会を開催しているのですが、そこでも学年を超えて交流しながらイベントを盛り上げようとしている様子が見て取れました。そうして人間関係を築くことは、学生生活を送る上でも就職活動をする上でも、大きなメリットになると思います。

入学志願者の獲得にも寄与

山田　学生寮を運営していく上で、経営的側面も重要になるかと思います。コスト管理や入学志願者の獲得など、経営における課題があれば教えてください。

津吹　アントレプレナーシップ学部の学生は、首都圏以外の出身者が約4割と高い割合を占めています。その理由として、寮の存在が保護者にとって安心材料になっていることが考えられます。その点では、志願者獲得に対して良い効果が得られていると実感しています。寮費は一人暮らしをするよりは安くなっていますが、大学が一定の負担をしている状況です。

深尾　企業と業務提携して新設した学生寮については、進学相談会などでかなり多くの問い合わせを頂いています。完全個室型で設備も整った学生寮という形は、最近の学生にとっても受け入れやすいようですし、セキュリティーや食事がしっかりしている点が保護者の安心にもつながっているのでしょう。本学の志願者数は近年も増加傾向にありますが、入試部の分析によると、学生寮の存在も一定の寄与があるとのことです。

採算性だけでは計れない価値

請川　本学では学生寮の大規模なリノベーションを行いましたので、それをどのように償還していくかが課題となっています。学生寮の経営は大学にとって負担の大きいものですが、やはり教育の価値に重きを置いて取り組むべきものだと考えています。もう一つの課題が、留学生を増やしたいにもかかわらず、留学生用の寮の居室が非常に少ないということです。現在、留学生専用としては5部屋しか用意されていないのですが、それでも短期で来日する留学生が多いため、年間を通して稼働させることが難しいのです。今後は民間の物件を借り上げるなど、留学生向けの寮についても検討しなければならないと思っています。

八木　本学の学生寮は、かなり安価に寮費を設定しています。そのため、大学の負担も大きくなっています。また、本学の学生は約9割が関西圏の出身ですので、学生寮があるからといって入学志願者が増えるとも考えられません。しかし、学生寮にはやはり他には代え難い教育的価値や、世の中に対する訴求力があると大学側でも捉えており、費用的支援と運営を続けています。

イノベーションが生まれる場所を目指して

山田　では最後に、これからの学生寮のあるべき形、あるいは構想している改革や計画など、今後の展望についてお話を伺いたく思います。

津吹　われわれは学生寮を単なる居住施設や交流施設ではなく、新しい価値を創発するイノベーションハブにしていくことに意義があると考えています。例えば、ハーバード大学の寮生同士の遊びからフェイスブックが生まれたように、新しいアイデアがどんどん生まれるような場所にしたい。そのためには、大学関係者に学生寮の教育的価値をもっと理解してもらうことが必要です。学生寮は大学と共生するものです。しかし、管理ばかり意識していては、新しい価値の創発を妨げる可能性があります。ですから、学生が失敗しながらも試行錯誤して学んでいく姿を、周囲の関係者にも見守ってほしいと思います。

　また、本日、皆さんのお話を伺って、学生寮が各大学でとても大切な場所として運営されていることを実感し、心強く思いました。今後、学生寮が従来の大学教育の中で足りないものを埋める場所になり、日本の教育界に良い影響を与えることを期待しています。

深尾　企業と業務提携して寮を設置したスキームを生かして、現在、京都駅前にアントレプレナーシップを育むような複合施設を建設する計画を進めています。学部を限定せずに、学生と社会人が生活する交流型住宅を構想しており、社会人も一緒になってイノベーションを起こしていくよ

山田 健太氏

うな施設にしたいと考えています。業務提携を通じた寮運営においては、これからの寮の形を一緒に考え、作っていこうという話ができる、そしてそれを形にできる事業者との出会いが非常に大きかったです。新たな構想を形にするにはコストがかかりますが、業務提携を通じて、大学側の負担を抑えることも可能になりました。こうした取り組みを通じて、学生寮の新たな可能性を切り拓いていきたいですね。

あとは学生目線に立って、社会に出た時に寮生活がかけがえのない経験になるように、ソフト面を充実させなければならないと思っています。今は社会の課題を解決したいという熱意を持った学生も多いですから、例えば寮での暮らしを通じて、地域住民として課題解決に向かうことができるような環境を作るのもいいかもしれません。そういう意味では、学生寮を通して大学教育の在り方自体も考える時期が来ているように思います。

学生寮の新たな可能性

八木　2018年に「RYUTOPIA」を開設しましたが、想像以上に国際交流が繰り広げられていました。留学生

に日本語を教えるグループが自主的に立ち上げられたり、みんなでイベントを企画したり、日本人学生と留学生が夏休みにお互いの実家に招待するといったこともありました。しかし、コロナ禍によってそれが全てストップしてしまった。その影響は大きかったですね。一度燃え上がった火が消えてしまいましたが、現在はそれをいかにして再燃させるかを検討しているところです。現在、各ユニットにイベントの企画を出してもらっているところですが、そうしたところから本来あるべき国際交流の形を復活させていきたいと思っています。一方で高大連携の取り組みとして、寮に住む留学生が近隣の高校で母国の文化や魅力などについて講演する機会も頂いています。そうした学生寮の新たな展開の仕方もこれから考えていきたいと思います。

請川　本学は創立時から自治寮として寮を運営し、時代に合わせて形態を柔軟に変えてきました。しかし、近年は学生の気質が変わってきたこともあり、実際には学生自治の下に運営する難しさも感じています。また、リノベーションを実施しましたが、建物自体が非常に古いことには変わりありません。今後、学生自治の在り方や建物の維持方法についてさまざまに検討を重ねなくてはなりません

が、今回の座談会で各大学の取り組みを伺って、あらためていろいろな可能性を模索しようと思いました。

山田　私の所属大学でも、コロナ禍の学生寮では感染対策や通信環境の整備など、さまざまな問題が持ち上がりました。しかし、逆にそれらの問題が大学全体の課題を浮かび上がらせているようにも感じたのですが、そう考えると、学生寮は大学のある種の象徴的な場として存在するのだとあらためて思いました。また、皆さんのお話を伺って、学生寮はまだ発揮しきれていない可能性を秘めている、大学の貴重な資源であることを再認識したところです。本日はありがとうございました。